

# 土木学会創立 40 周年記念懸賞論文の審査を終わって

土木学会誌編集委員会委員長

八十島 義之助

土木学会が会員から論文を懸賞募集したのは始めてでなく、記録によれば今回が 2 回目である。第 1 回は戦争末期の昭和 18 年に「飛行場急速建設の新構想」と題して、21 編の応募があったが、一、二等なく佳作 3 編、選外 6 編が選ばれ、学会誌 30 巻 3 号(昭 19. 3)に発表されている。

このたびの懸賞論文募集は、創立 50 周年を迎えた学会を支える若々しい意見を反映させたい意図から、年齢制限を 35 才、つまり学会奨励賞の応募対象にしぼった。49 巻 9 号に発表以来、ポスターによる宣伝も並行して行ない、30 名ちかい会員から原稿用紙の請求を受け、締切日である 10 月 15 日に整理したところ十数編の応募を得た。

編集委員会が選抜した審査委員は 10 月 27 日、13 時から約 6 時間を費やして個々の論文の内容を検討し、A 論文 4 編、B 論文 2 編を選出、最終討議を経てつぎの論文が選ばれた次第である。

## 課題 A. これからの土木技術者

(学会誌掲載) 一席 正会員 堺 幸七君  
KK建設技術研究所  
( 同 ) 二席 同 山下 敢一君  
石油資源開発KK長岡鉱業所  
佳作 同 石崎 昭義君  
国鉄信濃川工事局  
佳作 同 高端 宏直君  
国立明石工業高等専門学校土木工学科講師

## 課題 B. これからの土木に関する研究課題

(学会誌掲載) 一席 正会員 佐藤 吉彦君  
国鉄鉄道技術研究所軌道研究室  
佳作 学生会員 川口 昌宏君  
東大数物系大学院博士課程

審査にあたっては、独創性があり論理に飛躍がない、若々しい、学会誌掲載にふさわしいなどを一応の規準にした。

つぎに、審査委員会において、各氏がのべられた意見のごく概略をご紹介します。

### A. 一席 堺 幸七君

自己の体験からにじみ出た論でないこと、全体のバランスがやや崩れた感があり、また、消化不良の感じがすることが惜しまれるが、オリジナリティーに富み、ダイナミックな特色ある論文である。

### A. 二席 山下 敢一君

一席の論文に比較するとオリジナリティーに欠けるが論旨は一貫しており、器用にまとめた感が深い。最初は気負っているが、最後はやや腰くだけと見るが、とにかくソツなくまとめている。一席と最後までせり合った論文であり、学会誌に併載して会員の批判を待ちたい。

### A. 佳作 石崎 昭義君

やや神経質にすぎたり、建設性にかけるうらみなきにしもあらずだが、働らく技術者のプライドが感じられ、すがすがしい。わかりやすく提案が具体的な点も着目された。

### A. 佳作 高端 宏直君

人間教育のあり方の追求がほかにみられないところである。物足りない点もあるが、着眼点もよくセンスも感じられる。現状の認識が甘く若々しさに欠けるとの意見もあった。

### B. 一席 佐藤 吉彦君

非常にむずかしいテーマをよくまとめており、オリジナリティーも認められ、主張も正攻法である。ととのいすぎている点が難点ともいえよう。B論文 4 編の中で審査員が一致して注目した。

### B. 佳作 川口 昌宏君

文章のまとまりに欠けるところがあったが、態度が真剣であり、若さもあふれ好感ももてる。

以上はなほだ簡単であるが審査評を終る。ご応募いただいた各位に厚くお礼申上げるとともに、今後もこの種の企画を随時たて、実行に移したいと思う。